舞鶴市近代化遺産保存センターNEWS

第7号
令和8年11月号
（毎月15日発行）

青葉山ろく公園

旧第三海軍火薬廠があった場所

青葉山ろく公園は、１９８１（昭和５６）年に開設され、現在もキャンプやパターゴルフ、陶芸館での作陶など様々な体験ができる施設として親しまれています。季節のイベントに参加したり、バーベキューを楽しんだ方もおられるのではないでしょうか。今回は、青葉山ろく公園内にひっそりと残る旧海軍の関連施設「旧第三海軍火薬廠（かやくしょう）」の遺構を紹介します。



公園内のキャンプ棟

旧海軍の巨大プラント

朝来地区には、１９４１(昭和１６)年に旧海軍の火薬製造工場「第三海軍火薬廠」が建設されました。もとは長浜地区にあった工場が、移転されたものです。工場では砲弾や魚雷に使用する火薬を専門に製造し、一説には太平洋戦争期に旧海軍が使用した火薬の半数以上を生産、ピーク時には５０００人もの人々が製造に従事したと言われています。

原料を運搬するために鉄道の引込線が敷かれ、各工場や火薬庫、庁舎や工員宿舎などが立ち並ぶ巨大プラントでした。その広大な敷地は朝来谷（あせくだに）の一帯に及んでおり、大波下の海岸付近から現在の青葉山ろく公園や舞鶴工業高等専門学校周辺まで広がる広大なものでした。広大な敷地を確保するため、住民は集団移転を余儀なくされたという歴史もあります。

今はキャンプ場に

現在、青葉山ろく公園には2棟のキャンプ棟があります。これらは第三海軍火薬廠のうち、第二製造部に置かれた「空気炸薬成型工場」をキャンプ棟として転用したものです。火薬を扱う工場のため、誤って爆発しても被害を軽減できるように小部屋に分かれた特徴的な構造をしています。建物の横にある大きな土手も火薬廠の遺構です。万が一、火薬が爆発を起こしても周囲に被害を広げないための防爆壁と呼ばれる壁です。その他、錨と波の「海軍マーク」の入った消火栓が現存しているので探してみてください。

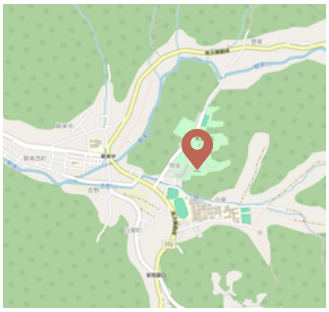
今は公園の中に溶け込んだ風景ですが、ひっそりと火薬廠の歴史を伝えています。



今も残る防爆壁

遺構の場所

舞鶴市字岡安２２
青葉山ろく公園内



レアな海軍マークの消火栓



どこにあるのかぜひ探してみてください。防火対策に気を配っていたことがわかります。

近代化遺産とは

幕末から第二次世界大戦期までに、当時の最新技術でつくられた、日本の近代化に貢献した建物やインフラなどの遺産です。近代化遺産保存センターでは、私たちのまち舞鶴の礎を築いたこれらの近代化遺産を大切に次世代に継承していきたいと考えています。

舞鶴赤れんがパークには明治時代から大正時代に旧海軍が建てたれんが造りの倉庫8棟が残り、国の重要文化財に指定されています。舞鶴市では令和7年度から貴重な近代化遺産を将来に受け継いでいくため、6号棟の保存修理工事に着手しました。

重要文化財を未来に引き継ぐ

赤れんが６号棟保存修理工事のこと

10月25日に見学会があったと聞きました！
行けなかったので内容を教えてください。

当日は、赤れんが6号棟の歴史や修理工法について解説を行ったあと、実際の修理現場をじっくりとご覧いただきました。当日の様子を写真でご覧ください！



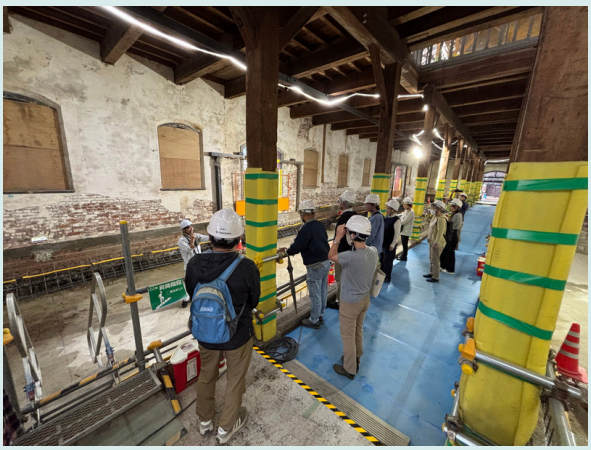
見学会は修理前の７号棟からスタート

７号棟は赤れんが６号棟の隣にあり、同じ大きさ、同じ建て方で建てられた倉庫です。倉庫内で修理工法の解説を行いました。



解説中（６号棟の瓦）

10月号で特集した６号棟の屋根修理。取り外した瓦を実際にご覧いただきました。瓦の点検では、一枚ずつ叩いて音を聞き、瓦の損傷状態を調べます。



最後に６号棟の内部へ

ご覧頂いたのは基礎のコンクリートです。耐震補強のために建物内を掘削して新しく鉄筋コンクリートで基礎を作っています。

今月の『近代化遺産センターNEWS』はいかがでしたか？
QRコードから、あなたの「知りたい」「見たい」をお聞かせください。
舞鶴市近代化遺産保存センター　TEL：0773-68-9236　kindaikaisan@city.maizuru.jp

イベント告知　巡回パネル展、開催中！

舞鶴の
近代化遺産ずかん
赤れんが倉庫だけじゃないので、ちょっと覗いてみませんか。

舞鶴市内の近代化遺産を豊富な写真で紹介するパネル展を下記５会場で順次開催しています。

巡回会場一覧

西図書館	**11.5(木) - 15(日)**
東図書館	**11.18(水) - 12.2(水)**
郷土資料館	12.4(金) - 20(日)
まなびあむ	終了
西駅交流センター	終了